

○事務局（島田） 皆様，こんにちは。定刻となりましたので，平成28年度第1回調布市立図書館協議会を始めます。

本日は御多忙の中，御出席いただきまして，誠にありがとうございます。

初めに，今年度4月1日付けで職員の人事異動がございました。御紹介させていただきます。

副館長が高田に代わりまして，福島でございます。

○福島副館長 よろしくお願ひいたします。

○事務局（島田） 奉仕係長が返田に代わりまして，五十嵐でございます。

○五十嵐係長 五十嵐と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（島田） 調査支援係長が五十嵐に代わりまして，返田でございます。

○返田係長 返田です。よろしくお願ひいたします。

○事務局（島田） 事務局の阿部でございます。

○事務局（阿部） 阿部と申します。よろしくお願ひします。

○事務局（島田） どうぞよろしくお願ひいたします。

職員の紹介は以上です。

開会に先立ちまして，図書館長の小池から御挨拶申しあげます。

○小池館長　皆さん、こんにちは。お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今日からしばらく天気が良さそうではありますが、次には梅雨がやってくるのかなという時期だと思います。

今年度最初の図書館協議会でありますけれども、図書館協議会の期といたしましては、実質は昨年10月からお話しいただいているかと思いますが、その年度が変わったところで第1回ということでもあります。今日は盛りだくさんの説明をさせていただきながら、御意見をいただければと思っております。

今、図書館がいろいろ注目されている状況にあって、図書館がどういう方に向いていくのかということに世間の関心は高い。調布においてどのぐらいその関心を持たれているかというのはあるかと思いますが、この協議会でいただく御意見を参考にしながら、今後も図書館の運営を考えていきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

最近、話をしてくれというお話が結構舞い込むことがあるのですが、大きくあるのは、昨年も御紹介したかもしれませんが、図書館と出版の関係です。よく新聞などでもあるかと思うのですが、本が売れないのは図書館が本を貸すためだというお話もありますが、それが本当かどうか誰が検証するのだろうかというところはあるながらも、一方で、お互いにあっちがどうだという話をしてもしょうがない。やはり同じ本を読む人に対してどうしていくのかということは、出版という形で作る人、あるいは流通させる人のこともあるし、図書館のようにそれを手渡していくところがどうしていくかということが大きな課題としてずっと続いている状況だと思います。たまたまそういうことについて話をしてほしいということを頼まれることが最近また多くなってきているところがあります。

私は、昨年10月のある会合でも思ったのですが、やはり読者というものをどのように捉えていくかというのをお互いに考えなければいけないし、それから、そもそも本を読む人たちがどう変わってきているかをどう捉えるかという話をしていました。それは相変わらず変わらないと思いながらも、電子書籍という形で紙ではないもので本を読む人たちも出てきていて、人が物を考える方法もそれによって変わってきているのかもしれないという中での捉え方

が重要ではないかということで一致したかと思っています。

そんなところで、今回のお話の中にもちょっと出てくるかもしれませんがけれども、やはり図書館のありようの1つの形として無視できないというか、かなり重要な部分だと思っています。そんなことも含めて、今後もどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。とりあえず、今日はよろしくお願ひいたしますというところであいさつとさせていただきます。

○事務局（島田） 次に、本日の資料の確認をお願ひいたします。

本日の資料は、次第と一緒に全て事前に郵送させていただいております。お手元に資料の御用意をお願ひいたします。

「平成27年度第4回調布市立図書館協議会議事録（案）」、こちらは付番がありません。

次に、資料1「平成27年度図書館事業報告」。

資料2「図書館利用状況報告（平成27年4月～平成28年3月期）」。

資料3「平成28年度調布市立図書館事業計画」。

資料4「特色のある公共図書館事例」。

資料5「2016年版調布市暮らしの道しるべ」。

資料6「調布市立図書館健康・医療情報をさがすには」。

資料7「1年生にすすめる本2016」。

そして、最後に資料8「図書館で調べものをするときに…」。

資料は以上ですけれども、おそろいでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、野末委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○野末委員長 皆さん、こんにちは。よろしくお願ひします。図書館の職員の皆さんも異動があつて、特に五十嵐係長と返田係長は場所が変わつた。一応その席も替わつて居るのですね。何か決まりがあるのですかね。

今日、こういう机の配置になつて居るのは、後ほどスクリーンを使うからですが、私としてはなかなか。実は、ふだん意外と見づらいなのです。今、とても見やすい状態でありがたいと思ひます。毎回座席表というものをつくつていただいで居るので、丁寧なのです。今日はちゃんと斜めに作つて居るのです。

図書館の皆さんすばらしい。ありがとうございます。

では、今日は盛りだくさんですので、早速始めていきたいと思います。ただいまから平成28年度第1回調布市立図書館協議会を開催いたします。

初めに、定足数の確認をします。本日の出席委員について事務局から報告をお願いします。

○事務局（島田） 御報告いたします。飯野委員におかれましては、欠席するとの御連絡をいただいております。大作委員におかれましては、遅参するとの御連絡をいただいております。つきましては、ただいまの時点で10人御出席いただいておりますので、調布市立図書館条例施行規則第17条第1項に規定されております定足数に達しております。

以上です。

○野末委員長 ありがとうございます。定足数に達しているということですので、引き続き進めてまいります。

審議に先立ちまして、本日の案件について非公開とすべき議題があるかどうかをお諮りいたします。

議題を事前に御覧いただいているかと思いますが、特に非公開とする理由はないかと思われますので、御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。御異議ないものと認めたいと思います。

本日の傍聴者の定員は、いつもどおり会場の都合で5人とさせていただいております。では、本日の傍聴希望者の有無について事務局からお願いします。

○事務局（島田） 御報告いたします。傍聴希望者はいらっしゃいませんでした。

以上でございます。

○野末委員長 最近全然いないですね。もう少し楽しい雰囲気とか出したら来るのですかね。最近あまりいないからちょっと寂しくなってきました。

それでは、傍聴者はいらっしゃらないということですので、このまま会議を継続して審議に入りたいと思います。

それでは、議題の第1号「平成27年度第4回調布市立図書館協議会議事録（案）の承認について」です。こちらの資料は、先月、開催通知と併せて事務局から送付を受けております。委員の皆様には既に確認いただいているかと思っております。修正の必要はございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

非常に丁寧に作っていただいているかと思っております。もしお気づきの点がありましたら、この会が終わるまでにお申し出いただくとして、特になければ、これで署名により確定することにさせていただきます。よろしく申し上げます。では、事務局のほうで後ほど署名の手続をお進めください。前回指名を受けたのが飯野委員なのですね。これは郵送で後で署名をいただくということですね。よろしく申し上げます。

では、続きまして、議題の第2号にまいります。「平成27年度図書館事業報告について」です。こちらは小池館長から御説明をお願いします。

○小池館長　では、資料1をお願いいたします。お開きいただきますと、1ページからページ立てしております。

1ページには概要として記述させていただいております。書かれていることの繰り返しにはなってしまいますけれども、調布市立図書館は、中央図書館、10館の分館ということでの図書館システムを構築しながら、いつでも、どこでも、だれでも気軽に利用できる図書館を目指して活動しているということでもあります。

また、調布市教育プランにおいても、生涯にわたって自己実現を目指す機会を提供すること、また、調布市社会教育計画においても市民の学びを支えるということを規定していることになっております。

全国的な状況を見ましても、子どもの読書活動の推進に関する法律、また、文字・活字文化振興法が制定され、それは読書離れということが言われている中での状況であろうとは思いますが、読書活動の普及に努めているところであります。

また、昨年度は、利用者懇談会の中で「図書館DEマンガ」というテーマ設定をしてお集まりいただきました。図書館資料の選定がどうなっているのかという御関心を一昨年いただいたのが背景にあるわけですが、そのことを御理解いただく1つの方法として漫画資料を紹介しながら、利用者に集まっていただいて、意見をいただいたところがあります。

また、乳幼児からの読書習慣が大事だということの中で、幼児向けの絵本リスト「赤ちゃんは絵本がだいすき！」を改訂し、3・4箇月児健診のときに配付するなど、理解の普及に努めてきたところがあります。

あと、昨年は、こちらには中学生のビブリオバトルとありますけれども、ぶちねこ便という活動の中で集まってきている中学生がビブリオバトルを何回か実施しています。その結果をぶちねこ便の中でも紹介しているということがあります。公式にと言ったらちょっと語弊があるかもしれませんが、図書館としては、ビブリオバトルを取り上げたのはこの事業の中が最初になると思っております。

また、文化会館たづくりが開館して昨年は20年であると。当然、中央図書館が開館して20年ということもあるのですけれども、3月20日にたづくりアートフェスティバルという催し物が行われ、この館全体でさまざまな催し物が行われました。そこで図書館もおはなし会の実施、布の絵本展示会で参加いたしました。ちょうど土曜日ということもあり、お天気が良かったこともありましたけれども、かなりの方に御参加いただき、特に親子連れの中でも、お父さんとの参加が見受けられたことが特徴的だったところがあります。こういう取組を定例的に水曜日というだけではなく、新しい方法として実施できたかなと思っております。

2ページ以降は少し細かい事業となっております。1つには、運営事業という中で図書館協議会、また図書館利用者懇談会を実施してきたということ。

児童サービスについては、乳幼児向けのサービスとして、くくりとしてはブックスタートとしておりますけれども、健診時にリストの配付などを行っているということです。おはなし会、また乳幼児への親子おはなし会も定例的に行われているということです。

3ページに行きますと、障害のあるお子さんへのおはなし会とかに鋭意取り

組んできたということもあります。

それから、3ページの一番下にありますけれども、絵本の読み聞かせ講座ということで実施しております。これは読み聞かせについて、図書館のスタッフが持っているノウハウを一般の方にも理解していただく中で、子どもに本を手渡すということが進めば良いかなということで実施しているところでもあります。

4ページに調査支援ということでもありますけれども、まちゼミを御存知でしょうか。商店会、特に小島町や布田あたりの商店会さんを中心に実施しているところでもありますけれども、まちゼミに図書館もかかわる中で、まちゼミを実施するお店の業種に合わせたリストの提供をしています。あと、関連の展示もするということです。これで3回目になったかと思えますけれども、そういうことを実施しました。

また、ハンディキャップサービスとしまして、利用者懇談会なども実施しましたし、実際に音訳や点訳の活動をされる方の養成講座、スキルアップ講座も実施してきたところでもあります。

5ページに進みまして、ボランティア活動の中では、例年どおり新たにボランティア活動を始めようという方への説明。また、ボランティア活動をする方とのミーティング。その中では、認知症を正しく理解するためということの中で高齢者支援室の協力を得ながら、ちょっとしたミニ講座みたいなことも実施したことが特徴的だったかと思っております。

また、成人対象事業としましては、各種講演会を実施しながら、多くの参加者を得ながら学びのきっかけになったかと考えているところです。

最後に7ページに行ってください、設備関係です。2箇月の休館を3館同時にさせていただきながら、電気設備関係の更新を実施したところです。節電効果もかなり得られるようなこともありましたし、併せて空調設備の更新もした宮の下分館は、そういう工事も実施していく中で少しでも利便性が高い、あるいは安全に利用していただける環境整備ができたと考えているところです。

雑駁な説明でありますけれども、事業報告とさせていただきます。

○野末委員長 ありがとうございます。それでは、御意見、あるいは御質問でも構いませんが、おありの方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

進藤委員，どうぞ。

○進藤委員　　3 ページに適応指導教室「太陽の子」との協力事業というのがあるのですけれども，3 年生で図書館に行くというのがあるではないですか。でも，太陽の子の方は不登校なので，その機会を逃してしまって，図書館に行ったことがないというような話を聞いていたので，これはとてもありがたいと思いました。

○野末委員長　　ありがとうございます。ちなみに，この9 とか10 とかという数字は，きっと結構来ているということなのですよ。

○進藤委員　　多分そうだと思います。

○野末委員長　　そうですね。結構集まっている数字ということですよ。

委員の皆さんそれぞれお立場がありますので，それぞれのお立場でも結構ですし，個人的な御意見でも結構です。進藤委員のようにコメントをいただくと，これが今年度，あるいは次年度の計画等に生かされていくと思いますので，どんなことでも結構ですが，いかがでしょうか。確かに本日，議題は多めなのですが，あまり皆さん遠慮なさらなくても，まだ大丈夫ですのでいかがですか。

では，私から1 つだけいいですか。ビブリオバトルは，図書館の方がコーディネートしてやってみませんかという形で進めたわけですよ。これは公開というか何というのですかね。続いているときに，例えば我々が見たいと言ったら見に行けるような状態のイベントなのではないかという御質問なのですが。五十嵐係長，お願いします。

○五十嵐係長　　ぶちねこ便の記者の子どもたちがビブリオバトルを昨年度実施いたしまして，かなり好評で，今年度もビブリオバトルを予定していると聞いております。

○小池館長　　ビブリオバトルは，報告を聞く限りではルールがありますので，

そのルールに従って、ぶちねこ便の記者たちが行ってみたということをして3回ぐらいやったかと思うのですけれども、併せて今後も続けていきたいという話にはなっています。

ただ、公開といったときに、ビブリオバトルの場合は、いわゆるバトラーとオーディエンスとが分かれるのがルールで、この本を読みたいと思った人が手を挙げるルールが基本ですので、公開にする場合でも、通常は閉じられた公開です。つまり、メンバーとしてある時間に来てくださいという、ふらりと来た人が見ていくものではないので、委員長が質問された公開という意味では、事前の公開ができるかどうかは、ちょっと調整が必要かなと思っています。

実際に今、記者が集まるのが日曜日で、月1回日曜日に編集を行うのがありますので、少し広げる方向があればと思っています。ただ、中学生の生徒さんたちがそれになじむかどうかは聞いてみないとわからないところです。

○野末委員長　ありがとうございます。単に自分が見に行きたいという趣旨だったのです。手を挙げる立場でなくても、後ろのほうでどんな様子かというのを。これはとてもいいと思うのです。これをきっかけに本に関心を持って、図書館に関心を持ってという、特に中高生にとってはとてもいいきっかけになる。もう少し言うと大学生にとってもそうなのですからけれども、こういったことが広がっていけば、調布の図書館はおもしろいことをやっていて、中高生がなかなか注目しているとなったらいいかなと思ったので。

最初は中学生がやりやすいようにクローズでいいと思うのですけれども、ここに委員の皆さんもいらっしゃるのです、時々ちらっとどんな様子かというの、関心ありませんか。私はとてもあるので、もしよかったら、柱の陰ぐらいから邪魔にならないようにのぞかせていただきたいなとかと思ったのです。それで公開、のぞけるかなというのはそういうことです。時間をとりましてすみません、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

皆さん進行に協力していただいていると好意的に受けとめまして、この後、平成28年度の事業計画の話も出てまいりますので、平成27年度の報告を受

けて平成28年度の計画の話のところ、もしあれば戻って、平成28年度の計画のところ去年どうだったっけという話をさせていただいても構いませんので、いったん先に進めたいと思います。

それでは、議題の第3号「平成27年度図書館利用状況報告について」です。こちら小池館長からお願いいたします。

○小池館長　では、資料2をお願いします。ちょっと細かい字で申し訳ないのですが、最下段の増減の様子を見ていただければと思います。

新規登録者、有効登録者、予約数、貸出冊数と大きく分けてありますけれども、新規登録については、やや多くなっているということ。有効登録者については、やや少なくなっているということです。

以前にも説明させていただいたことがありますけれども、有効登録者というのは、2年間のうちに貸出しのあった人としております。このところ有効登録者が減少している傾向があったのですけれども、一方、新規登録が減少すると有効登録が減少するという傾向があることがわかっていたので、新規登録が増えたと有効登録も増えるだろうと見込んでいたところ、減少の傾向がやや止まってきている。相変わらずマイナスであることは間違いないのですけれども、有効登録が少し増えている中で、利用が減っている傾向が少し止まってきているという状況が昨年度は見られたと評価しています。233という数字は全体的に見ればすごく少ない数字ではありますが、そういうところの中で、少しでも図書館に足を運んで登録していただく人がこれからも増えるようにしていきたいと考えています。

次に、予約数については、全体的には少し増えた。今まではマイナスが続いていたところですが、予約数がやや増えたところではあります。

貸出数についても同様で、前ですともう少し落ち込みがあったところですが、貸出しも少し平行になりつつあるのかなという状況にはあります。

今後どうなっていくかというのは、完全な予測はできませんけれども、今の状況としてはそういうところに変化が起きているということを報告したいと思います。

以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。それでは、御意見、あるいは御質問のある委員は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。安本委員、お願いします。

○安本委員　確認でございますけれども、これは全館を全部トータルしての統計ですよ。そうしますと、去年休館の期間があったことを考えると、開いているうちは活況であったということですか。

○野末委員長　いかがでしょうか。小池館長。

○小池館長　3館が同時に2箇月休館していますので、単純に言えば6箇月休んでいたみたいな状況にあるかと思えます。それを勘案すれば、減少傾向がこれだけ抑えられているということは、逆に利用は増えているとも見えて思っています。

○野末委員長　ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、私から。最近、図書館の貸出冊数って、全国的にはちょっと下降気味になってきているのですよね。だから、多分そのことを踏まえると、調布のこの数も全国的な傾向を少し反映しているところもあるかなという印象があるのです。理由はよくわからないのですけれども、そのあたり、全国的な若干の減少傾向みたいなものを踏まえて、この数字について何か図書館のほうで分析のようなものってありますか。小池館長、お願いします。

○小池館長　これは平成27年度というところで、全国的傾向については、大きな傾向は夏にならないと多分わからないので、少なくとも東京の状況については8月にならないとわからないので、その中で調布だけ伸びが止まったと言えるのか、全体の伸びが止まったと言えるのかは、その時点で見ても正直わかりません。

おっしゃったように、全国的に貸出しは減ってきているということは間違い
ない話であるわけです。その中で地域的なこと、あるいは全国的な傾向なのか
というのは、実際には見ていないので何とも申しあげられないのですけれど、
調布の図書館だけが減っているわけではないということは間違いのない話です。
ほかの館長さんと意見交換する中でも、自分のところも減っているという人た
ちがほとんどですので、全体的傾向は変わっていないのだろうというのは、昨
年度まではつかんでいます。ですので、昨年度の状況がどうなったかというの
は、もう少し見てみないと正直わかりません。

○野末委員長　ありがとうございます。全国的に貸出しが減っているのはな
ぜかというのは、業界としてもなかなか分析できていないところなので、景気
が良くなってみんな本を借りずに買うようになったのか、電子化が進んで借り
なくなったのか、あるいは借りずに館内で利用しているのか、いろいろな読み
ができるのですけれども、その辺はまだ分析されていないので、それも全国的
な様子と分析も見ながら、また調布でも考えていただければと思ってお
ります。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。陸委員，どうぞ。

○陸委員　この間の三多摩の図書館大会でちょっと聞いたのですけれども、
都区内は指定管理の図書館が増えていてという話だったのですが、都区内と三
多摩の貸出しの違いとか、そういうのはあるのでしょうか。

○野末委員長　では、小池館長，お願いします。

○小池館長　今日はちょっと持ち合わせていないのですけれども、管理運営
という意味では間違いのない話です。管理運営の主体が変わったことで利用がど
う変わったかというのは、申し訳ありませんが、今日は数字を持っていません。

○野末委員長　変わるかもしれないですね。必要がありましたら、また補足
していただくということで。ありがとうございます。

ほかにかがですか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

それでは、ひとまず先に進めたいと思います。議題の第3号を以上にいたします。

続きまして、議題の第4号「平成28年度図書館事業計画について」です。こちら小池館長から御説明をお願いします。

○小池館長 では、続いて、資料3をお願いいたします。これは前期、第4回のときにお示ししたものとほぼ変わっておりませんが、3月に行われた教育委員会の中で決定されたものとして、今年度の図書館事業計画とさせていただきます。

開いていただいて、構成的にはいつも変わらない状態ではありますけれども、先ほど報告の中でも触れたことと記述はほぼ同じようになっております。図書館の今の課題というのは、1つには職員の育成という部分が大きくあることを踏まえて、今年度も図書館事業を進めていきたいと記述させていただきます。

その中で昨年と少し違う部分としてあるのは、5ページまで進んでいただくとわかっていただけるかと思うのですが、調布の図書館は今年50周年を迎えます。6月10日が図書館開館記念日となりますので、その時点で図書館50周年を迎える状況になります。ですので、その状況を踏まえながら図書館としてこれまでの50年を振り返り、幾つかの事業を考えていきたいと計画しております。

大きくは、周年誌と呼んでいますけれども、20年、30年、40年と切りのいいところで周年誌を編成してきています。今回は50周年ということで編成する予定でおります。

また、記念講演会、時期的には3月18日と日にちは決めておりますけれども、そこで記念の講演会、ないしは事業を進めたいと考えております。それまで6月10日ぐらいから50周年記念事業ということで各館でおはなし会、よくかんむり事業などという呼び方をしていますけれども、50周年記念〇〇という形のものを進めていきたいと思っています。いろいろ決まっていないこと

が多いので、今の時点ではこのぐらいの説明にさせていただきたいと思っております。

それから、電算システムの入替え、いわゆるリースが切れるといいましようか、機器のリース契約が終わる段階でシステム更新をかけているのですけれども、今年9月で切れることとなりますので、新しいシステムということで今準備をしています。選定するシステムとしては、現在使っているシステムをしのぐものを今のところ見つけられないので、バージョンアップ版ということで今進めているところであります。サービス内容も少し変えられるのかなと思っておりますけれども、以前いただいた読書通帳とか読書記録の扱いについても慎重に対応していきたいと考えているところです。

それから、水木しげる氏コーナーということで、仮称ではありますけれども、水木しげるさんを記念するメモリアルみたいなものを図書館の立場で作っていきたくて準備しています。文化会館たづくり1階に水木しげるさんメモリアルコーナーということで今展示されていますけれども、あそこには調布市においての水木さんとの関係が展示されていますが、その中での図書館との関係、また水木さんの作品に触れられるようなコーナーを今考えています。場所としては5階を少し改装していきたいと考えているところです。

それから、最後9ページですけれども、染地分館の空調設備の改修工事が予定されています。もう直近ではあるのですけれども、5月23日から6月21日まで。来週から約1箇月休館して、図書館部分について言えば空調設備の更新が行われます。地域福祉センターとの複合になっていますので、地域福祉センター側の工事と一緒にやるイメージであります。染地地域の方には御迷惑をおかけするということがありますけれども、今年3月ぐらいから説明させていただきながら進めてきている事業であります。

ここには玄関自動ドアの改修とありますけれども、玄関は共用ですので、自動ドアも直すという話があります。図書館について一番大きいのは空調機の更新になりますので、今まで故障気味だったものが解消されて効率が良くなるのかなと考えているところです。

昨年との変更点を中心に説明させていただきました。以上でございます。

○野末委員長　ありがとうございます。今年度の事業計画です。先ほどは平成27年度の事業報告、実績です。こちらは計画ということです。既に平成28年度に入っていますので、実行されているものもあります。これについて御意見、あるいは御質問のある委員は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。松澤委員，どうぞ。

○松澤委員　5ページの（仮称）水木しげるさんのコーナーというのは、通年とありますけれども、例えば今年度だけなのですか。それとも当分しばらく、来年、再来年もずっとやるつもりなのか、その辺お聞きしたいです。

○返田係長　担当させていただいております返田です。

これは今年度だけではなく、少なくとも数年単位、10年ぐらいはコーナーを運営していきたいと思って今設置を考えております。

○松澤委員　それというのは、同じものが10年ずっとあるのか、年々でいろいろ工夫して変えたりということもあるのですか。作品が限られているので、それも難しいかなとは思いますがけれども。

○野末委員長　では、返田係長，どうぞ。

○返田係長　確かにおっしゃるとおり、できればいろいろ切り口を変えて小さい展示はしていきたいと思っていますけれども、新しい作品が増えることが考えられないので、今流通しているものをまず入手して、そちらで展示、貸出し等を行い、あとは水木さんの戦争の切り口とか妖怪の切り口とかいろいろありますので、そういった切り口で時々小さな展示をその中で行っていきたいと思っています。

○野末委員長　ありがとうございます。調布ならではのですから、ぜひ注目されるコーナーにして、市民に定着するといいと思います。

ちょっと雑談ですがけれども、大瀧詠一さんをやっているのはどこでしたっけ。

○小池館長 瑞穂町です。

○野末委員長 そうですよ。私まだ行ったことないのですけれども、瑞穂町の図書館は大瀧詠一コーナーをつくって、あれも恒常的に作っているのですよね。

○小池館長 そうですね。けやき館といいましたか、瑞穂の新しい図書館が郷土資料館と一緒にしたものでできたという話なのですけれども、いわゆる瑞穂町の図書館に大瀧詠一さんゆかりのものがあつた中で、お亡くなりになったときにそれを見に来る人たちが行列したという話で、これを恒常的に展示できるようにしようとなつていったと聞いています。

○野末委員長 ありがとうございます。公共図書館ももちろん基礎的にやらなければいけないサービスもあるのですけれども、やはり個性みたいなものも大事だと思いますので、その町ならではのところでぜひ推していただければ。

○小池館長 後ほどのテーマにもかかわるのでしょうけれども、調布の図書館が漫画資料を比較的持っている理由は、やはり水木さんがいらっしゃることがあつて、その中で漫画文化について着目するべきだろうということがあります。そのために、ほかの図書館に比べれば持っているほうではないかと。

また、漫画評論なども少し目を配って実際に収集しています。ただ、開架する量が限られているために、あまり目立たないというところはあると思います。今回そういうコーナーをつくることで、図書館が所蔵している水木さんの作品は一通り見ていただけるようになるでしょうし、漫画評論ということで見ただく部分も出てくるのではないかと考えています。

やはり水木さんのところにいらっしゃったつげ義春さんがいるということもあつて、そういうところでの関連ということで、調布もちょっとした漫画文化の中では重要な位置にある町であることが伝わればよいと思っています。補足

です。

○野末委員長　ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。高野委員，お願いします。

○高野委員　思い付きみたいでお恥ずかしいのですけれども，館長が今，漫画のお話をされたので。これは水木しげるさんの漫画なののですけれども，漫画がたくさんあるということで，水木しげるコーナーみたいな感じで1年に何回か漫画コーナーというのを大々的にやってみたらどうかと思ったのは，手塚治虫さんの漫画コーナーをぜひやってもらいたいと私は思うのです。手塚治虫さんが昔かいたロボットの漫画があって，今現実にロボットが人間を支配しようとしているというようなことを随分昔に漫画にしている。現代の人類にとっても示唆に富む漫画が非常に多かったので，ぜひ漫画コーナーがあったらいいかなど。

もう1つ，作者のコーナーで，この間も水木しげるさんと野坂さんとあったのですが，古典といわれる明治，大正ぐらいまでの作家の人たちの特色のある，これだけはぜひというものの蔵書を全部並べるのが希望ですけれども，夏目漱石のお話が1回ぐらいあったようなのですが，漱石なら漱石，昔の人の文学書というといろいろあるのですけれども，北原白秋でもいいし佐藤春夫でもいいし，作者コーナーみたいなものを小さな形でも設けられたら，野坂さんの展示をやったみたいな感じでできたらいいなど。

もう1つ，小さな子どもところに絵本の読み聞かせに行っているのですけれども，大型絵本が小さな子どもにとってもわかりやすく，「きんぎょがにげた」というのがありますね。それは小学校低学年向けになっているようなのですけれども，小さい子どもたちもとてもよくわかって喜んでくれて，ああいう形の大型絵本がもっとあったらいいなと思っております。だけれども，大型絵本は1冊8,000円から1万円ぐらいで，もっと高い1万5,000円ぐらいいのがありますよね。だからあまり無理はお願いできないけれども，小さい子向けの大型絵本がもっとあったらいいなと思います。

いろいろ言ってしまうてすみません。

○野末委員長　ありがとうございます。図書館側からコメントいかがでしょうか。五十嵐係長。

○五十嵐係長　大型絵本の件ですが、選定して収集しております。

○高野委員　私、パソコンで出そうと思って、うっかりやらないで来てしまったのです。リストがあれば。

○五十嵐係長　はい。

○野末委員長　ありがとうございます。ぜひ今後の計画に生かしていただければと思います。

では、進藤委員，どうぞ。

○進藤委員　障害のある小学生のおはなし会で、計画のほうには都立調布特別支援学校と入っているのですが、昨年度の実績はないように見受けられるのです。最近やりにくくなっているとか、そういうことがあるのでしょうか。

○野末委員長　これはどうでしょうか。それでは、小池館長，お願いします。

○小池館長　今状況を把握していないので混乱しましたけれども、相手のあることというところもありまして、今委員のおっしゃった部分が現実にあるかどうか、すみません、今の時点では把握できていません。

基本的には、中央図書館でしたらば調布特別支援，第一小学校の中でのサービス範囲で活動しているところでもあります。別途担当に確認しておきたいと思います。

○進藤委員　特別支援学校もとてもいっぱい行事とかがあって、いろいろ忙

しいということもあると思うのですけれども、図書館にアクセスしにくい方たち、そういう経験を持ちにくい、あるいは読み聞かせでも布の絵本とか学校にあるものは限られていると思うので、もし可能であればよろしくお願いします。

○小池館長　こちらが出向くということよりも、どちらかといえば来館することで、今委員がおっしゃったように集団行動をする、みんなでルールを守るということをするのもあって、ガイダンス的なものも兼ねて年に何回か来館されているのは実際にあります。ただ、調布特別支援学校がどこまでか、あるいはそういうのが今できにくくなっている状況かというのは、確認してみたいと思います。

○進藤委員　多分、教育課程とのかかわりがあるのかなと思いますけれども。

○野末委員長　ありがとうございます。今後に活かしていただいて。

では、大作委員，どうぞ。

○大作委員　8ページのボランティア関連事業で、サマーボランティアの受け入れのことで詳しく伺いたいのですが、昨年度の実績ですと、ボランティア体験をする学生を1人受け入れたということなのですが、これは職場体験とは異なる受け入れだと思うのですけれども、経緯だとか中学生以上ということの狙いだとかをもう少し詳しく教えていただけたらと思います。お願いします。

○野末委員長　ありがとうございます。それでは、サマーボランティアについてはどなたが。返田係長，お願いします。

○返田係長　昨年担当していた返田からでよろしいでしょうか。

このサマーボランティアというのは、中学生の職場体験とは別に、社会福祉協議会が毎年夏に企画をしているのです。そちらと協力した事業になっております。

○小池館長 補足です。社会福祉協議会でサマーボランティアを募集します。そこには高校生を中心に申込みがあります。その中で図書館でという希望があった人が紹介されてきて、図書館でのボランティア活動はこういうものですよということを説明し、そこでマッチングがうまくいった場合に実施されるというのが基本的な流れです。ですので、こちらも10人とか20人を受け入れる体制はありませんので、多くても3人とか4人というのが実態かなというところですよ。

あと、高校生の職場体験的な意味で直接申し込んでくる例もあります。その場合の仕分けといたしましうか仕切りとしては、せっかくですので職業体験という意味では必要かなというところがありますけれども、なかなか条件が合わないことで、サマーボランティアではないのだけれどもというところの中で、見ていると合わないケースのほうが多いかなという感じがあります。

○野末委員長 ありがとうございます。大作委員、よろしいですか。

○大作委員 実際には、そのボランティアは去年ですと2日間でどんなことをされたのですか。

○返田係長 よく1日図書館員をやっているところがあるかと思うのですがけれども、個人情報の関係があるので、個人の名前がわかることには携わっていただけないので、図書館全体の説明をさせていただいた後、予約の本をリストを見て本棚から抜いてくるとか、地下書庫とかフロアでの配架、書架整理をやっていただいたり、中にはハンディキャップサービスの説明をして、ちょっと点字を打ってみたりとか、おはなし会に参加してもらったりとか、来る曜日によって行事も違ってくるので、できるだけ図書館のいろいろな行事とか活動をやっていただきたいと、毎年少しずつ内容を変えて行っています。

○大作委員 ありがとうございます。

○野末委員長 ほかにいかがでしょうか。皆さんそれぞれお立場というか業

界の代表というか、そういう立場でいらしているのです、そのお立場で図書館にリクエストのようなものがあれば、多分ここでお出しいただくと反映の可能性はあるかなと思うのですけれども、いかがですか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

皆さんこちらの時間的な予定を御存知かのように今進んでおりまして、もしお気づきの点がありましたら、後ほどでも振り返っていただいて大丈夫ですので、いったん議題の第4号をここで終了とさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、議題の第5号です。協議会の今後の進め方の確認ということで1号議題を立てていただいております。これは委員長の私から簡単にお話をさせていただきます。

既にこれまでの協議会でもお話をしたところではあるのですが、今期の協議会は今日やっています5月、次に予定では7月、10月、来年の1月、5月、7月と今日を入れてあと6回ございます。申しあげておりましたように、この6回で何らかの文書、まとめを出して、調布市の図書館はこれからこういう方向になっていくといいですねという我々なりの提案のようなものを協議会としてまとめたいということで、皆さんにもいろいろな観点で御意見をいただいているということでございます。もちろん個人的な御意見でも結構ですし、それぞれのお立場、先生方であれば学校の立場から御意見をいただいているところです。

予定を事務局と御相談しまして、最終回の来年7月のときには文書としてまとめをこの場に提示して、これでまとめとしましょうというように持つていくこととなりますので、その前の来年5月にまとめの素案というか一歩手前のもの、ほぼ最終案に近いようなものをここで最後に確認して、議論があればそれを反映させていくということとなります。ですので、そうすると、それまで今日を含めてあと4回でいろいろな意見交換、議論をしていくこととなります。

先ほど小池館長からもありましたし、それから、これまで皆さんに出していただいた全体の御意見にもかかわるのですが、人の問題です。職員の問題というのは非常に大きいです。何を進めるにも図書館の皆さんのお力が必要ですので、来年1月には最後全体をまとめる形で人の問題を少しお話できればと思

っています。そうすると、今年の5月、7月、10月で具体的な論点を出し合
って整理するところを何とか今年中に進めたいということです。

もう少し申しあげてしまうと、今年10月のときにいろいろなテーマを出し
合って、大体こんな方向でまとめられるといいですねというところまで何とか
持っていきたいと思っています。

それに当たって、だんだんさかのぼってきているのですが、次回7月は、調
布の図書館の全体イメージのようなもの、皆さんの考えている調布の図書館は
これからこういう施設になってほしい、市民のためにこうなってほしい、こん
な場所であってほしいということを少し全体をくくるようなイメージでまとめ
ていく。そういう夢のある楽しい話ができればと思っています。

その中で、実際にどれがすぐできる課題で、どれが長期的な課題なのか、ど
れはみんなの意見が一致していて、どれはそこまで示せないのでは幾つか選択肢
として示すにとどめるのかということは、その後の切り分けの問題になると思
いますので、10月の時点では、調布の図書館はこういう方向に行きたいとい
うことをここでみんなで出し合って、ある程度イメージを共有したい、固めた
いということです。その後、まだ決まっていませんが、具体的に文書にする
とか、そういう作業が待っているということです。

ですので、次回7月のところでイメージを出し合うために今日用意してい
ただいたのは、そもそも公共図書館はどういうところで、調布の図書館はどう
いうところかということの議論の材料を御提供いただくということです。

実は、前回の協議会で館長から、調布の図書館、あるいは公共図書館とい
うものはこういうところですよということをいろいろお話しいただいたのですが、
今日はそれを踏まえて、調布ではないいろいろな図書館の具体的な事例、図書
館は今非常に変わってきています。こんな図書館もあるということを今日は紹
介していただいて、7月のイメージを議論するときに向けて材料を提供してい
ただくということです。

実はあらかじめ皆さんにお願いがございまして、事前に資料もお送りしてい
るのですが、今日御覧いただいて、事前の資料、今日のお話、今日全て議論が
出尽くすというわけにもなかなかいかないと思いますので、もしよろしければ、
宿題を出させていただきたいと思っております。

今日は、館長に少し御紹介をいただいて、それについて皆さんから御意見、あるいは御質問をいただいて、そうすると皆さんいろいろお考えになるところがあると思うのです。調布の図書館はこうなっていくといいなといろいろなイメージしていただいたものを次回7月までに少し簡単なメモ書きにまとめていただいて、それぞれのお立場であると思いますので、持ち帰っていただいて、このようになるといいなということを文字に起こしていただいて、それを次回7月に持ち寄って、これはおもしろいですよねとか、ここはもう少しこうしたらいいですねということを考えていければと思っております。

ですので、今、議題の6号にも少し入ってしまったのですが、それぞれの立場で調布の図書館をこうしていきたいということを率直にぶつけ合うような進め方で来年7月に向けていきたいということで、事務局の方々とは御相談したのです。

一応、これまでこの協議会の席でお話したことと矛盾はないと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。進め方だけなのですからけれども、大丈夫ですか。どうしても宿題が嫌だという方がいらっしゃれば、私が直接足を運んで口頭でお伺いします。それはそれで意味があると思いますので。ぜひ御協力いただいて、せつかくですので最後に形にして、それがいつ実現するかわからないですけれども、調布の図書館がより良くなるように。もしかすると将来、たづくりの建て替えなどということがあったときに、こんな図書館になったらいいなというところかもしれませぬし、今の建物でできることもたくさんあると思いますので。今後の進め方について、少し提案を含みますけれども確認ということで、そのように進めさせていただこうと思います。よろしくお願ひします。

では、今既に申しあげてしまったのですが、議題の第6号「図書館のイメージの確認」ということで、こちらについては議論の材料の提供ということで、事前にお送りした資料も踏まえつつ、館長から情報提供いただこうと思います。今日は、まず一通り説明していただいて、その後、質疑応答の時間にしたいと思います。

○小池館長 では、少しスライドっぽくつくってみましたが、お手持ち

の資料で言えば資料4を適宜見ていただきながらということで、お願いしたい
と思います。

では、特色のある公共図書館事例ということであります。今日は5つの図書
館の事例を用意させていただきました。視点としては、図書館、最近図書館の
世界では結構注目されている図書館です。どういう点で注目されているかとい
うのは少しずつ違いますので、そこを中心にお話ししたいと思っております。

(パワーポイント)

1つは、武蔵野プレイスです。これは武蔵野市立図書館の1つの分館という
位置づけになっています。行かれた方もあるかと思えますけれども、武蔵野プ
レイスという名前にあるように、図書館には限っていないのです。つまり、例
えば子育てに関するような機能、児童館のような機能、それから市民活動支援
センターのような機能ということで、プレイスという名前に「場」という意味
がありますけれども、そういうことを込めているかと思えます。

例えば、今見ていただいている場所は、本が少し透けて見える空間で、かつ
閲覧デスクがある空間だと思います。

(パワーポイント)

例えば、武蔵野プレイス自体にはこういう幾つかの部屋が用意されています。
機能として、自分が予約した本を自分で借り出せるような仕組みがあったり、
こちら(写真2枚目)が打ち合わせをしたりすることができる。ここ(写真3
枚目)は本が置いてある空間で、見せ方も特徴かなと思います。こちら(写真
4枚目)は、いろいろな集いをしている。ここ(写真5枚目)は本を見せる。
これ(写真6枚目)は本の表紙というのでしょうか、カバーなどをうまくレイ
アウトするようなイメージです。やはり本を見せる空間になっています。

(パワーポイント)

武蔵境の駅前にありますので、駅からすぐ近くではありますけれども、地下
2階にはティーンズスタジオということで青少年の居場所、調布で言えばC A
P Sのようなイメージになるでしょう。また、地下1階というと薄暗いイメ
ージかもしれませんが、意外と明るいところで、地下1階に一般の図書が
置いてある。パークラウンジというのはエントランスホールみたいな感じで、
ここでは喫茶も含め配置されています。

それから、この上は図書といえば図書だけれども、少し交流できるようなイメージで作られている。3階に行くと、市民活動支援センターのような、国領の市民活動支援センターに行かれると、はばたきという空間がありますし、このたづくり11階も同じような空間がありますけれども、そういう集う場所です。さらに上は屋上であります。

では、児童書はどこにあるのという視点になると、このあたり（B2F創作活動の場）に少し展示されているかと思えますけれども、図書館だけというわけではなくて、青少年、小さい子どもから利用できる空間にされているというのが1つあります。

（パワーポイント）

次に、オガールプラザと呼んでいるところです。これは岩手県の盛岡よりやや南のほうにある紫波町の図書館が入っているところです。

オガールというのは、まずオガールプロジェクトと呼ばれる取組みがあって、広大な空き地があったところに町のにぎわいみたいなものを作っていこうという中でできてくるわけですけれども、オガールというのは、あの辺りの言葉で「おがる」、つまり「成長する」という意味から来ています。そういう思いも込めているらしいですが、オガールプラザという一角が作られました。その中に図書館が入っているということです。

事業的におもしろいのは、NHKの地域創生みたいなところでも最近紹介されていましたが、地域創生の1つの取組として、紫波町と島根県海士町というところがありまして、本当にその地域が自立して活動していくところになっています。

プロジェクトのリーダーから言わせれば、銀行がお金を貸してくれる事業をちゃんと作る。つまり、公共事業だと最後は税金でというところがよくあるのですけれども、銀行が金を貸してくれるような事業に組み立て直して、当初よりも事業の規模は小さいかもしれないけれども、逆に言えば、しっかりした事業として組み立て直すという中でつくられていっている一角です。その中心に図書館を持ってきたところがおもしろいところです。図書館建築としてはこんな明るい感じですし、ここ（写真2枚目）も子どもの本を中心に明るい空間になっています。

(パワーポイント)

コンセプトとして、「知りたい」、「学びたい」、「遊びたい」を支援する図書館ということでもあります。ある人に言わせれば、図書館は本を提供するところだといえそうかもしれないけれども、そういう表現はしないけれども、利用者、町民が知りたいと思ったり学びたいと思ったり遊びたいと思ったり——遊びというのはいろいろな意味でとらえられると思いますけれども、それを支援するような図書館でありたいということです。

それを具体的にするために、運営の柱としてこの3つを挙げているということです。まず、子どもたちからということ。これも図書館的には普遍的な理念かなということもあります。地域資料もしっかり見ていこうということが1つあります。もう1つは、産業支援をするということです。紫波町というのは農業がありまして、果樹農業もあるし畜産もあるし、そういうところでの組立てを図書館が支援していくということです。

ちょっとこれとはずれるかもしれないけれども、行くと楽譜とかが置いてあるのです。それも軽音楽の楽譜があって、何であるのと聞くと、ちょうどジャズか何かをやっている人がUターンかIターンをしてそこに定着していて、その人とのつながりの中で図書館にもそういう一角を作ろうということをやっています。そういうところが遊びというわけでもないだろうけれども、この辺をやるためにちょっと今までの図書館とは違うようなテーマにも取り組んでいるところがあります。

(パワーポイント)

次がオガールプラザの構成なのですけれども、平面的なものは資料にも入れてあります。マルシェというのは、要するに産直市場です。かなり大きいです。それから、焼き肉屋とか居酒屋なのですけれども、この3つの食べる部分がついています。それから図書館、図書館の横に情報交流館は、市民活動支援センターの情報コーナーみたいな感じですか。それから、子育て支援ということで小さい子どもを連れて人たちが集える場所。これ（オプティカルギャラリー）は明らかにお店ですね。それから、これ（紫波中央眼科）もお店といえばお店です。これ（COFFEE & WINE 4832）もお店です。それを取り仕切る会社があります。さっき私が言ったように、お金をちゃんと貸してもらえ

事業になっています。

これ以外に、オガールプラザには去年役場が移転してきていて、役場をPFI事業でやるということ。それから、一角にはおがくずで発電するとか熱源を供給する、エネルギーセンターみたいなものもあって、近くにはエコハウスが分譲されています。さっきから言っているお金が借りられるというのは、ちゃんと土地の一角を分譲して、分譲したので当然お金が入るし、こういうところはちゃんと家賃を払うのです。そのお金がちゃんと戻っていく。キャッシュフローがちゃんと回るような仕組みにされているということです。

(パワーポイント)

次に、山梨県立図書館です。小さい写真でぼやけてしまいましたけれども、甲府駅前に県立図書館が移ってきたというイメージです。ガラス張りっぽくなりますが、全体が図書館と交流機関です。その中でゾーニングがわかりやすいような形にされていて、勉強している、本を読んでいる、調べているということが自然に流れるように設計されています。

勉強する場所も、静かに勉強したい人のためのエリア、それからある程度ディスカッションしたい人たちのエリアが分けられていて、この中にコーナーが点在しているところです。

行ったときにおもしろいと思ったのは、ホルンが見えて、図書館の中でホルンを吹く人が出てくるのかと思っていたら、さっき申しあげたコーナーの中に閉じられたガラス張りの部屋があるのですけれども、そこでホルンの練習をするのです。図書館の中でホルンかと思ったのですけれども、要するに個人授業みたいな感じでやったりしていて、それが見られても構わない人はそういうことをされているのが見えることで、一種の文化が交流されているというイメージもよくわかるようになっていきます。

県立図書館ですので、かなり本を持っていて、古い図書館に比べればかなり整理された状況になっているのかなと思いました。館長は阿刀田高という方です。

(パワーポイント)

山梨県立図書館としては、県民図書館を目指すというコンセプトを持っているらしいです。全ての県民のための図書館であること、県民がつくっていく図

書館，開かれた図書館，どんどん必要に応じた成長をしていく図書館，それから山梨の文化を伝え支えていく図書館ということ。

山梨県って，例えば有名なのはブドウとかワインとかありますよね。それから，水にもこだわっていたりします。そういうことの資料を収集してしっかり伝えていこうとしている図書館です。

(パワーポイント)

次に，東京から見れば山梨県よりもうちょっと西の方になるかと思えますけれども，えんぱーくと呼んでいる空間をつくった塩尻市立図書館があります。

塩尻市立図書館のコンセプトは，「応援する」，「提供する」，「進化する」ということで，それを実現するための手段として，えんぱーくの中には図書館もあるということです。最初に武蔵野プレイスを紹介しましたが，構成は若干違うけれども，やはり1つのえんぱーくという建物の中でこういう機能（応援，提供，進化）を持たせることで塩尻市にこういう効果を期待していくとか，提供していきたいということがもともとあったのです。

(パワーポイント)

ただ，図書館としてしっかりしている部分を紹介すると，あいさつでも申しあげましたけれども，本にこだわっているのです。なぜかといえば，筑摩書房を作った古田晁さんの出身地である中で，筑摩書房との関係がしっかり作られています。これはえんぱーくができる前からですけれども，筑摩書房の全出版物は塩尻市立図書館に寄贈されます。古田晁さんを顕彰するようなコーナーもあるし，筑摩の出版物が基本的には全てあるということです。

それから，塩尻もワインがありますので，塩尻ワインとか五一ワインなどについての資料もしっかりある。

それから，短歌に関するコレクションもかなり持っています。

それから，漆器。木曾が近いので，塩尻に昔の木曾が一部入ってきているためでもあるようですけれども，塗り箸なども含めて収集されています。

それから，やはり塩尻は一つの歴史的な結節点ですよ。信州，甲州，名古屋方面，木曾に行く結節点でありますけれども，そこでの文化，歴史をしっかり残していこうということだと思えます。

あと，若葉のコーナーは，通常，図書館でいうところのヤングアダルトコーナ

一です。中学生、高校生ぐらいの人たちのためのコーナーがあって、張り紙がしてあったり、メッセージカードなどが張ってあったり、勧めたい本が置いてあったりします。かなりスペースがあって、単に若い人が読みそうな本だけではなくて、勉強に役立ちそうな本なども並べられています。

それから、闘病記、緩和ケアということで、これもこだわって置いてあります。

コレクションの話をしてはいますが、本の並べ方自体にも工夫があって、例えばおもしろいと思ったのは、図書館でいう昭和史の本が並んでいる横に戦争の本、軍事の本があるのです。つまり、見方はいろいろあるかもしれないけれども、我々、今生きている日本の人間からすれば、昭和史というのは戦争と密接にあるわけですね。図書館の分類で言えば全然場所が違うのですけれども、それを近くに置いてしまうという並べ方をしている。

それから、旅行ガイドブックのところには英会話とかその国の行った先で使うであろう会話帳、そういうものが一緒に置いてありました。単純に言えば、イギリス旅行の本の横にイギリス英会話みたいな本が置いてあったりして、そういうところでの使いやすさを考えているところです。

それは職員がある程度考えてやったこともあるけれども、利用者と話をしているうちに気づいて、そういう並べ方をするとということもしているという話でした。

(パワーポイント)

最後に、まちとしょテラソといいますけれども、長野県小布施です。長野市よりやや北方にある図書館です。いろいろな意味があるのでしょうけれども、町を図書で照らそうに引っ掛けた名前になっているのです。小学校の脇に建っています。これは一方からですが、だ円形の建物になっています。夜になるとまさに照らす。引っ掛けてはいるのだけれども、やはりほっとする空間を求めたいと作られているそうです。

図書館的にもワンフロアになっていて、コーナーでいろいろ見せていくところになっていますけれども、町の中で1つの重要な施設になろうとしている。こちらの資料の中には建設のプロセスが書かれていますけれども、すごく長い時間をかけて住民の人たちと意見交換をして、設計から作り上げていったという背景があります。

(パワーポイント)

この中で取り組んだことで、これも最近いろいろなところで出てきていると思いますけれども、まちじゅう図書館ということです。先ほどの施設だけでは当然本は置き切れないだろうと。町民が欲しいと思うような本を本当は豊富に持ちたいのだけれども、それは物理的に無理だろうと。そのときに発想を変えて、町中にいろいろな専門家がいる。味噌屋に行けば味噌の本がどうもあるらしいとか、見ていたら味噌の本がいっぱいあるとか、醸造系、発酵食品についての本を味噌屋のおやじさんは集めていたとか、そういうのをみんなのために見せてくれませんかというような話の中からエントリーしていただいて、自分のコレクションを公開するようなことを町の1つの運動としてやっているということです。

さすがに貸出しはそれぞれのルールに従うらしいのですけれども、町立図書館のシステムの中に入れるというよりは、そういう形で自分のコレクションを見せてくださいということをやっています。

御存知かもしれませんがけれども、小布施に行かれると、人のうちの庭先を歩けるのです。これは、町全体という大げさかもしれないけれども、町が旅人を受け入れる1つの空間ですよということを演出するという意味で、自分の家の庭先を通ってもいいですよ。庭には花とかいろいろ植えてあつたりしますけれども、そうすることで町のイメージがしっかり出てきますよね。そういうことをみんな町民が協力するという素地がもともとあるみたいなので、これもそういうところからやりやすかったのかなと見ているところです。

一応これで説明を終わりたいと思います。

○野末委員長　ありがとうございました。実際には、1館について多分2時間ぐらいいろいろ話ができるぐらい本当にどこもすばらしい図書館だと思います。

では、せっかくですので、まずは御質問、あるいは御意見、どんなことでも結構ですので、今日はとにかく皆さんから御感想、あるいは御質問、御意見、どんどん出していただいて、何か重要なキーワードを拾っていく回にしたいと思いますので、どんなところからでも、単純な感想でも御質問でも結構ですので、いかがでしょうか。では、松澤委員。

○松澤委員　ちょっと聞きたいのですけれども、その前に来たときに、図書館

についての提言というか、そのようなものを最終的に作るということですが、コンセプトというか、今のお話を聞いていると、例えば1個の理想的な図書館を目指してこうあるべきだという話で進むのでいいのか、そうすると基本的には中央図書館の部分だけを考えていく形になるのか、もう1個別にいいものをつくるかという部分。ただ、調布には11図書館があって、その11の図書館全てに対して今後こうあるべきだという方向性で考えていくのか。その辺は今後の話の中で変わってくるのかもしれないのですけれども、今見ていてどうなのだろうと。1個の理想像でいいのか、調布の今ある現状で全てこうやってほしいというのを考えるべきなのかというのが、どっちなのかなと思ったのです。

○野末委員長 よくわかります。実は前期、今の話で言うと、今の図書館サービスをベースにして開館時間をどうしようかとか、障害者のサービスをどうしようかということ割と具体的にやってきたのです。それが前期からの引き継ぎで、皆さんのお手元にあった最初のものなのです。ですので、そういう意味では割と短期的、中期的ぐらいの話を前にしてきたのです。

それを踏まえて今期は、そうは言っても、それが本当にどうなるかというのを長期的に、今の言葉で言うと理想的にとということになるのでしょうか、少し大きな話で、我々が調布の図書館はこういう姿になっていくといいなという理想のイメージを共有できたらいいいのではないかとということで、こんな話になっています。

ですので、この資料を用意していただいた意図をお伝えしてしまうと、調布には図書館が中央図書館以外に10館ありますので、調布全体を見越して、調布として図書館というものはこれからこのように持っていければいいなということです。ただ、新しく何かを作るというのはまだわからないので、それがいつ実現するかとか、ここの改装の時期なのか、建て替えの時期なのかというのはわからないので、あえてイメージという言葉を使っているのはそこなのです。将来的にこういう方向に行けばいいよねということを出しておいて、その中で今実現できることはこれなのでという流れにすると、前期に考えた短期的、中期的なことも位置付けやすいかなということです。

繰り返しになりますけれども、今の形で言うと、我々図書館協議会では調布の図書館全体を見ているので、調布の図書館はこれから将来的にこのようにやっ

ていけばいいと皆さんの意見をどんどん出していただく。ただ、長期的にはこうで、短期的にはこうでという整理を後でしょうではないかということです。お答えになっていますかね。平たく言うと、言いたいことを言っていただいていいということなのです。

○松澤委員　今見たイメージだと、例えば基本的には中央図書館1個に絞って、ここをこうして行ってこうやったほうがいいのではないかみたいな感じのほうがいいかなと。でも、それがいいかどうかわからないので、全部の図書館に対してこうあるべきだというのは当然やるべきだとも思うし、ちょっとその辺が。

○野末委員長　多分、今御覧いただいたのは、建物としてのイメージが強いので、中央図書館はこのようになっていけば良くて、でも分館も地域館もこのようになっていけばいいよねというようにして、そこは話の時々で大丈夫かなという気はします。もちろん、今紹介したのが理想で、これを目指しましょうということでは決してないので、調布は調布のあり方があると思いますので、もっと伝統的にいくというようになるかもしれないし、それは皆さんからの御意見次第かなと思っています。

ただ、今、図書館は我々がイメージするよりもかなり大きく変わっているところなので、それを公共図書館の事例で今日は御覧いただいたということです。

○松澤委員　図書館って子どものころの自分のイメージでは、本を借りるというのもあるのですけれども、基本的に勉強しに行く場所というイメージなのです。今、図書館は勉強するというよりも、たづくりという大きい中に入ってしまうと、8階に学習室があるではないですか。勉強は全く別で、図書館は図書館で本だけのことをやってくれみたいな感じのイメージがすごく強くて、その辺をまた元に戻すとか、勉強をするなら図書館に行きなよみたいな感じの方向に行くことはあるのですか。それはないですか。

○野末委員長　それもまさにここで皆さんの御意見をいただきたいところなのです。多分、館長が後で補足してくださるのですけれども、調布は分ける形にな

っているのですが、一緒にしている図書館も確かにあるのです。勉強だけでもいいからおいでという図書館も一方であって、いろいろなスタイルがあるのです。ずっと議論があるところなので、では、調布はどういうのが一番いいかということをおの人に御意見いただきたいと思います。

今日は結論を出すつもりはないので、今、松澤委員がおっしゃったように、これも考えなければということをおにどんどんおっしゃっていただけるといいかなと思います。どのぐらいうまくまとまるかわからないですけども、小池館長、今の学習スペース問題についてありますか。

○小池館長　行ったり来たりですよ。歴史的には1950年代とかに、図書館というのは勉強する場所だというイメージで作られてきたのが多かった。

1960年代、70年代、図書館がどんどん増えていくときに大きく方向変換したのは、図書館は本を提供するところ、読む場所となっていく。勉強する人たちに占拠されている図書館ではなくて、本がいっぱいある図書館であるべきだということになっていく。ところが、今おっしゃったように、図書館ってやはり勉強する場所だと思う人たちが最近だんだん増えてきている。

こういう中で、図書館のありようというのは、どっちが正しいということは正直ないと思っています。どうしても物理的に同じ空間に同時に違うものは入れられないので、ある程度どっちかにしなければいけないとなったとき、ゾーニングの問題とかで変えていく必要があるのかなと思います。

今日紹介した中でいくと、例えば小布施ですと勉強をしています。そこしかないから。学校の近くということで、それを別に悪いとは言わない。あまりほかの人に迷惑をかけたらだめよというコンセプトになっている。県立図書館になってしまうと、すごく大きいので、もともと山梨県立図書館というのは勉強する場所だというイメージが甲府の人たちにあるらしく、昔から並んでいたようです。もともと部屋を分けるイメージがあったところ、本がある場所もちろんあるのだけれども、そのところどころに勉強するような空間もうまく配置されています。今はまたそういう建築にだんだんなっている。どっちが正しいとかではないと思います。

○野末委員長　ありがとうございます。地域の問題もありますからね。どういう地域で、周りにどんな施設があって、どういう住民構成でということも影響しているのです、調布は調布のあり方を考えていくべきポイントだと思います。

ほかにいかがでしょうか。安本委員，どうぞ。

○安本委員　今，紫波町の図書館の映像を見せていただいて，何を目指しているのかというコンセプトが大変わかりやく表示されていました。調布の事業計画書をいつも拝見して，ハンディキャップのサービスを充実させるために音訳，点訳者を養成するところから調布はやっていらっしゃいますから，それって誇れるところだと思うのです。

やはりわかりやすく，いつでも，どこでも，だれでもということをもうちょっと全面に出していただいて，実際どういったことをやっているか，児童サービスの充実とかと書いてありますけれども，それがどこどこに当てはまっていくのかということを見やすく，わかりやすくしていただくと，この図書館がどれだけ充実しているのか，誰でも行けるのだ，おうちにいても本を宅配してもらえますから，本に触れることができる，学習がこれだけ保障されているということは誇れることだと思うのです。だから，それをもうちょっとわかりやすくアピールなさってもいいのではないかと感じました。

以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。コンセプトワークというのですか，広報とかPRにつながる場所。確かに調布の図書館というのは，実はとても充実しているので，なかなか我々もここをこうしたらというところがそんなにないかもしれないのです。ただ，今おっしゃったように改めて確認して，誇れるところがどこでということも報告書に書いていくことは必要な感じがします。

今日は結論というよりは，いろいろ御意見を賜ります。松田委員，どうぞ。

○松田委員　調布の図書館は数が多いということはすごく誇りだと思うのです。中央図書館はこんなに立派ですけれども，やはり分館のイメージが，これはこれで昭和の香りということで推して，レトロな感じでやってもいいと思うのです。

そこで、山梨県立図書館にキャラクターが出ていますけれども、例えば本の中から鬼太郎が出ているみたいな、何か調布の図書館のイメージキャラクターのようなものをつくって、分館にお金はかけられないと思うので、デパートのつるしみみたいなものでそのキャラクターをバンと掛けるとか、何か目立つイメージというか、そういう作戦はどうかなと私は常々思っていたのですけれども、いかがでしょうか。

今すぐ実現できるところからやって、先々にはそれこそ分館のリニューアルで、わくわくするようなすてきな建物に替えていただけたら素晴らしいのですけれども、まずはせつかくあるものを生かしていったらいいのかなと思います。

○野末委員長　ありがとうございます。今回、大きなイメージを共有したいところもあるのですけれども、おっしゃるように今できることもどんどん出していただきたいので、イメージ戦略というのですかね。ちなみに、調布の図書館にキャラクターはいないのですよね。

○小池館長　50周年ということではちょっと作ってみました。

○野末委員長　作ったのですね。これそうなのですね。50周年キャラクターなのですか。どなたか、いわれを簡単に。

○小池館長　今ポスターを持ってきます。

○野末委員長　これは50周年記念キャラクターなのですね。なるほど。でも、もしかするとこれが昇格して調布の公認キャラクターになるかもしれない。

○小池館長　今お回ししたのは、メジロの「じろ」という名前を付けてあります。例えばこれは本を持っているバージョンを見ていただいています、何か調べている様子だとか本の受け入れをしている様子とかということで、係の仕事に合わせたバージョンも作ってあるので、そういうものはあると思います。今、委員がおっしゃったような地域性ということは考えていないのですが、例えば何か

その地域に由来があるようなものがあれば、そういうのも1つかもしれないと思います。

難しいのは、これを見たときに本と何の関係があるのかということで、例えば某県立の耳の大きいネズミのようなものが一体何者なのかというのはありますよね。そういうところのデザインコンセプトがしっかりしていかないと、こういうのは難しいので、調布の図書館をイメージするものと言われたときに、なかなか打ち出しにくいというのがあって、今までやってこなかったというのはあるかと思っています。

○野末委員長 実は今、日本の図書館界は空前の図書館キャラクターブームで、グランプリもゆるキャラと同じように行われております。着ぐるみのある図書館もあります。それぞれかなり個性があるところも多いのですが、そうやって図書館がだんだん親しみやすいものになってきていると思います。キャラクター問題も皆さんで少し検討してみたいと思います。

○安本委員 キャラクターでなくても、紫波町のこれも何か私的なマークですよ。

○野末委員長 紫波町のは、確か専門家を呼んでデザインをつくっているはずですよ。

○小池館長 芹沢銈介の弟子に当たる人がお住まいで、亡くなられたみたいですよけれども、その方に頼んでデザインしてもらったのがこれです。ですので、いろいろなところにこれが使われていて、図書館バッグも売っていますけれども、そこにも入れてあります。型染めのものにしたりとか。

○野末委員長 館内のデザインもかなり統一されているのですよね。デザインから入った図書館です。

ほかにいかがでしょうか。今日は論点を拾いたいだけなので、御意見、お気付きのところ、どんなことでも。進藤委員、どうぞ。

○進藤委員　今見ていて、建物とか、どういうものが入っているとか、どういう人が来るのだろうかみたいなイメージはあると思うのですけれども、私は障害児の親なので、知的障害の人とかが本を見たいのだけれどもと行って来たときに、どういう対応をしてくれるかとか、どのくらい親切にしてくれるかとか、あと、よくわからないけれども調べたいものがあると小学生が来たときに、どのような受け入れをしてくれるのかというソフトな人の部分というか姿勢というか、どんな人でもここに来たら本があるから紹介するよということだと思えるのですけれども、そういうものも図書館の大事なところというかコンセプトだと思います。

○野末委員長　先ほどのいつでも、どこでも、だれでものところですよ。

○進藤委員　そうですね。

○野末委員長　ありがとうございます。確かにそうですね。ソフトの部分ですね。ほかにいかがでしょうか。今日はどんどん出していただいて、多分出し切れないと思いますので、宿題になってしまいますが。

ちょっと補足をしますと、伝統的にやはり図書館って図書のやかたで本を借りるところ、読むところだったのです。資料というか本が中心のデザインだったのですけれども、今5つ挙げていただいたのは全部ここ数年にできたもの。何がデザインされているかということ、完全に利用者が主役で本が主役ではない。利用者の方が何の目的で来て、どんな活動をそこでするかということデザインしているのです。だから、そこが今までの20世紀とは大分違う。図書のやかたではなくて、そこで利用者が何をやるのか。もちろん本を借りていく人はいるのです。本を読む人もいるのです。それは変わらないのですが、それに加えて何のために来ているのか。それこそ医療の情報を求めて病気を治したいと思っ来ているのか、友達同士で連れ立って勉強しに来るのか、デザインのコンセプトが大きく変わってきているのだと思うのです。重要なことはそれを図書館だけで考えるのではなくて、住民と一緒に考えている。全部そうです。

調布もこの協議会がその役割の1つを果たしていると思うので、我々が図書館

のこれからを考えていくとしたらということで、どんどん意見を出していった、まだコンセプトの段階だと思いますけれども、将来的に時期はいつかわかりませんが、できるところから始めてより良いものにしていくことを我々がお手伝いできればということになると思います。

ほかにはいかがでしょうか。皆さんがこれからお考えになるヒントというか、幾つかあるのですけれども、1つは、電子化、デジタル化、ネットワーク化の対応はどこも必ずやっています。

あとは、お気付きだと思いますけれども、複合施設化とよく言っていますが、いわゆる伝統的な狭い図書館ではなくて、それと関連するような施設と一緒にやっていくというのが今の流れです。こここのところできている図書館で複合施設でない図書館は近年見たことがないです。お互いに効果的なところと一緒にやっていく複合施設化が今の流れだと思います。

それから、静かな図書館ではなくなってきているのも1つの流れです。友達と連れ添って何かを学び合うとき、どうしても声が出たり動いたりしますので、大学図書館だとそれをラーニングコモンズという言い方をします。今は大学図書館もにぎやかになっていますので、友達同士でああこうだ言いながら学ぶスペースもあるというようになっています。

あと、住民参加というのは、先ほど申しあげたとおりです。

もう1つは、それぞれの地域性みたいなものを割と色濃く出すようになってきていると思います。

大体5つぐらいの大きな流れがあるのかなと思います。ですので、調布としてもどこをどのぐらい重視するかというのは調布のあり方があっていいと思うのですが、今の各特色のある図書館を参考に、皆さんにもぜひお考えいただいて、イメージを共有していければと思っております。

もう少しだけ時間をとりたいと思います。いかがでしょうか。もし、この点は考えておきたいということがあれば、今お出しいただいて大丈夫なのですが。では、高野委員からどうぞ。

○高野委員　紫波町の運営三本柱の一番に、0歳から高校生までと本をつなぐとありますが、このことをヒントに、全部を網羅しなくてもいいから、1つこう

いうコンセプトでやってもいいのではないかという気がしたのです。調布は図書館の歴史が古いから、こういう形になってきたのは何にも文句のつけようがないと思うのですけれども、例えば高校生までもというコンセプトをうたったとしたら、学校の図書館との関係。分館が全部あるからそれ以上欲張るわけではないのですけれども、学校の図書館が学校の中だけではなくて、広く開放する意味で、何か特色のあるミニ図書館みたいなのがあったらすてきだと思ったのです。

○野末委員長 学校の図書室との関係は重要なポイントですよ。ありがとうございます。では、安本委員、どうぞ。

○安本委員 さっき見てきた図書館の幾つかは、〇〇市立図書館ではなくて愛称が付いていましたよね。ああいう愛称を付けることはできないのでしょうか。

○野末委員長 それも考えてみたら。確かにそうですね。もちろん図書館という名前は付いているのですけれども、図書の館というイメージを超えるイメージを愛称に込めている。

○安本委員 調布市内でも青少年の活動をする何でしたっけ、よりも^{キャプス}CAPSと言ったほうが通りがいいし、子どもたちはCAPSと言っていますから。

○野末委員長 わかりました。では、これもぜひ考えてみましょう。すぐに実現できるかどうかということとはまた別の問題として、こういうアイデアも出して、それをどこがどう実現するかというのはまた次のところで。

○安本委員 図書館というのは随分長く歴史があって定着しているから、その必要はないのかもしれないのですけれども。

○野末委員長 ぜひ考えてみたいと思います。

大分時間が押してまいりまして、まだ皆さん言い足りないところがたくさんあると思うのですが、この後、後日事務局から宿題の通知が行くのか、ちょっと形

式を考えます。調布の図書館がこういう方向になっていくといいなということをごさんに少し書いていただいて、それは短期的なものでも長期的なものでもイメージでも具体的なサービスでも構わないので、一回出し合って寄せ集めて、それを整理しながら議論できればと思っています。

では、進行が悪くて大変申し訳ないのですが、時間がぎりぎりになってまいりましたので、ここで第6号議案はいったん終了させていただいて、宿題に続くということにさせていただきたいと思ひます。

次に、議題の第7号「その他」で報告事項4件お願いしたいと思ひます。アの「調布市暮らしの道しるべ」、それからイの「健康・医療情報をさがすには」について、まとめて返田係長からお願いいたします。

○返田係長　では、まず資料5のちょっと小さいサイズ、文字も小さいのですが、これはここ3年毎年行っているのですが、電通大の新入生のガイダンスの中で図書館のPRの時間をいただひています。そこで配付しています。あと、図書館全館の館内でも配付してひまして、市内に入っひらっしゃった大学生ぐらひの若い方を対象として考えていますので、イラストは若い人向けに作っひるものになります。こちらは昨年のもを内容を確認して改訂してひります。

それから、資料6ですけれども、こちらは初めて出しました。図書館は幾つかの機能があるのですが、図書館の仕事の中で健康とか医療に関する情報を提供したいということで、中央図書館では5階の小さな机1つですけれども専用のコーナーを設けて、よく病院に行くとき配布されているようなパンフレットとか、調布の健康推進課が出しているようなチラシとかを置ひて、市民の方に使っひていただきたいということでコーナーを持っひています。

今回はそれを一歩進めて、「健康・医療情報をさがすには」ということで、図書館でこういっひたものを探すには、もしくは自分でどのように探したらいいか困っひている方のためガイドを作っひて配付を始めました。

以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。

それでは、ウの「1年生にすすめる本」とエの「図書館で調べものをするとき

に」についてもまとめて御報告いただきたいと思います。これは五十嵐係長からお願いします。

○**五十嵐係長** 資料7，資料8をお手元に御覧いただきながら御説明させていただきます。

図書館では、お勧めしたい本を手にとってもらいたい、それから図書館を上手に利用していただきたいということで、いろいろなリストを発行しております。

「1年生にすすめる本」は、保護者と一緒に楽しんでほしい小学校1年生向けの推薦図書リストになります。小学校を通して1年生全員に配付させていただいているほか、図書館でも配布しております。

それから「図書館で調べものをするときに」は、小学校高学年向けの図書館の本の調べ方ガイドブックになります。小学校を通して5年生に配付いたしております。先生方には大変お世話になっておりまして、いろいろありがとうございます。

以上です。

○**野末委員長** ありがとうございます。それでは、今の議題の第7号，ア，イ，ウ，エについて、御意見，御質問ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。松田委員，お願いします。

○**松田委員** こういうハンドブックを調布市は作ってくださって本当にありがたいと思っています。それで、高学年の人へということで、5年生に渡すことになっているのですが、6ページ以降にすごく充実したリストを載せていただいて、環境問題そのほか載せてあるのですが、調布とか玉川上水とか方言を学ぶのは3年，4年の中学年の調べものにするテーマなので、できれば高学年向けプラス別冊で中学年向けの分冊にさせていただいて、後ろのほうにワークできるような、やってみようみたいなページも入れて、申し訳ないのですけれども、そのように改訂していただければありがたいと思います。

以前、児童担当の方にお話ししたところ、それは意見を言っただけであればいいですというお話だったので、ぜひ私どもも一緒に作りたいと思っておりますの

で、よろしく願いいたします。

○野末委員長 松田委員から御一緒にとという言葉がありました。これは議事録に太字で残していただいて（笑声）。まさにこういう協議会の意味があるところだと思いますので、より良いものをお互い作っていければと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。陸委員，どうぞ。

○陸委員 高齢者から出ているので、「健康・医療情報をさがすには」ができたのがとてもいいと思いました。そして、信頼性が高いと思われるものが図書館にあるということがとても大事で、それをもっと皆さんに知ってもらいたいという事は特に思います。

それで、早速なのですけれども、孫が病気になって、私もこのインターネットを調べたりしたのですが、高齢者の方ってインターネットを使えなかったりするのですけれども、そういう場合はこちらに来てお願いすれば調べていただけるのですよね。そういうことも説明があったらいいと思います。

がんについて調べるのがやけに詳しく出ていたのですけれども、もうちょっとしたら認知症も入れていただけると、認知症カフェをやっているので、皆さんにそれが渡せて話ができるかなと思いました。よろしく願いいたします。

○野末委員長 ありがとうございます。ぜひ改訂のときには陸委員にも御意見，御協力いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。柘委員，お願いします。

○柘委員 初めてじろちゃんを知ったのですけれども、こういう1枚ぺらもいいのですが、これからの刊行物には50周年とじろちゃんが載ったものにして、いろいろなところに配られて、目に付く確率を高くされたほうが有効かと思います。

○野末委員長 ちょっとずつデビューしているところらしいので、多分これか

らお披露目が。せっかくですから盛り上げていければと思います。ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。進行が悪くて時間間際になってしまいました。申し訳ありません。一応、ここで議題の第7号を閉じさせていただきたいと思えます。

以上で本日の議題は終了なのですが、お時間の許す範囲で結構ですので、宿題に御協力いただいて、先ほど松澤委員からあったのですけれども、皆さんからいただいたもので議論しやすいように、例えば中央図書館について、建物について、分館について、全体について、あるいは短期的なものや長期的なもの、少し切り分ける必要がありましたら切り分けて議論しやすいように、皆さんから出していただいたものを踏まえて少し検討させていただきたいと思えます。そこを事務局と私にお任せいただいてよろしいでしょうか。ぜひその方向でお願いいたします。なるべく皆さんから御意見いただきやすいようにしてまいりたいと思えます。

では、以上で議題終了でございます。事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局（島田） 御連絡いたします。次回の開催につきましてですけれども、平成28年度第2回の開催は、7月21日木曜日を予定しております。皆様の御都合はいかがでしょうか。場所と時間は、たづくり10階1001学習室に変更になります。時間は午後2時から4時と同じです。7月21日でよろしければ確定とさせていただきたいと思えますが、よろしいですか。御都合の悪い方がいらっしゃればおっしゃっていただければ。——大丈夫でしょうか。では、7月21日に決定させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

次に、本日の協議会議事録の署名委員を指名させていただきます。今回は松田委員をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

そして、図書館から御案内があります。副館長から御案内させていただきたいと思っております。

○福島副館長 資料がないのですけれども、今、じろの紹介で非常に盛り上がったところで、最近決まったイベントを御紹介します。

毎年、味の素スタジアムが地元で施設を開放してくれる日がございまして、

第9回味の素スタジアム感謝デーが6月11日土曜日にごさいます。午前10時から午後4時で味の素スタジアムに無料で入れるのですけれども、その地元PRブースにテントひと張り分のスペースをいただきまして、図書館50周年ということで図書館のPRをしてまいります。じろの立て看板と一緒に記念撮影をしてもらったり、あるいは大人用、子ども用に作った塗り絵をしてもらったり、メッセージボードのようなものができたらということで、今アイデアを募っているのですけれども、その日、味の素スタジアムにいらしたら、フィールドでやっていますので、ぜひお寄りください。

以上です。

○事務局（島田） それでは、最後になりますけれども、机の上の資料は、進藤委員から。

○進藤委員 ありがとうございます。「みんなの学校」という去年作られた映画なのですけれども、たづくりまつりというのが6月10日から12日にありまして、たづくり利用者会議と調布市公民館が主催で行うのですが、その中でこの映画の上映会が3回あります。前売り券800円で、たづくり・グリーンホールの窓口で販売しています。

これは大阪の公立小学校のドキュメントで、不登校だった方とか被虐待児の方とか発達障害の方とか、いろいろな課題のある方がたまたま入ってしまった学校で、全ての子どもに居場所がある学校を作りたいということで先生方とか地域の方、保護者の方が一緒に作っていくというドキュメントです。文部科学省特別選定ということで、調布市教育委員会が後援してくださっております。とてもおもしろいです。もしお時間がありましたら、よろしくお願ひします。

○野末委員長 情報提供ということで、ありがとうございます。

○事務局（島田） 御連絡は以上でございます。

○野末委員長 それでは、委員の皆さん、議事の進行に御協力いただきまし

てありがとうございます。

これもちまして平成28年度第1回調布市立図書館協議会を終了いたしました
と思います。

—了—